

令和元年7月11日(木)

19:00~20:30

会場; 御前崎市役所 301・302

1. あいさつ(河原崎全教育長)

先日、神奈川県二宮町という町から町長さんと町内会長さんがお見えになりました。

二宮町はまだ『コミュニティスクール』が始まったばかりなので、『コミュニティスクールの勉強したい』『いろんなところを参考にしたい』ということでした。

いろいろな情報交換をしてく中で、御前崎市のよさを考えた時、ひとつのことをやろうとした時に小学校と中学校のコミュニティスクールが違ってきますと、統一した目標に向かえない。御前崎市の場合には、何かをやろうとした時に、園から高校まで一つの目標をつくってみんなで取り組めるわけです。

本市の場合には、それほど細かい組織ではないですけども、一同に会し、ひとつの目標に市をあげて取り組めるよさがあると思います。

今年度は『ゲーム障害・ネット依存の防止』ですので、新聞の切り抜きを資料として用意させていただきましたので、何かの参考にさせていただいたら・・・と思います。

あと、昨年度は、『早寝・早起き・朝ごはん』に取り組みました。ちょっと時間が経つと過去のことのように思えてしまいがちですが、朝ごはんもとても大事だと思いますので、朝ごはんの継続もしながら、今年度の目標に取り組んでいただきたいと思います。

2. 会長あいさつ

御前崎中学校区会長

私は、前回この会議に初めて参加させていただきまして、ちょっと刺激を受けまして、個人的ではありますが、家族みんなでいる時は、暇潰しにスマホを出さないとか、意識するようにしている。全体で目標を持って進めていくことももちろん大事ですけど、こういう会に出ることによって、皆さんそれぞれが何か刺激を受けてプラスの方向に活動できればなというふうに思っています。よろしくお願いします。

浜岡中学校区会長

『ゲーム障害・ネット依存』の件についてですが、こういった場や高校等でも同じようなことをやっている。いろいろな場で『ゲーム障害・ネット依存』について、いろいろな課題が出ていて、皆さんいろいろなことで取り組んでいる。『問題』としては奥が深いということですね。簡単に一枚岩になれないかもしれないが、何か答えを出して、いい方向に行くよう、今日もよろしくお願いします。

3. 学校教育課より

(1) 運営協議会委員のゲーム障害・ネット依存アンケート結果について(学校教育課長)

今回の協議を充実させたいと思ひまして、アンケートを委員の皆さんに送付し、御回答いただきました。

やはり、『情報機器の利用の低年齢化』については大変心配している。また、『SNS やオンラインゲームを夜遅くまでを利用している児童生徒の割合』が多いというところでした。『ネット依存・スマホ依存』は病気に認定をされていますので、病氣にならないように予防をしていくことが求められると思いました。

先ほど教育長が、話された朝ごはんの件ですが、市内の全4年生と5年生対象にアンケート（アイチェックという方法）をとりました。（全国で13万人位の子が受けた。）

その結果は、御前崎市内の4年生も5年生も全国平均よりも1.5ポイントないし2ポイント高い数値が出ました。その分析を静岡大学の村山教授が、「御前崎市は『朝ごはん』についてはピンポイントで指導できるどころができたね」と、お話をしてくれました。

このアンケート（アイチェック）中で、全国平均よりも高かったのは、何かというと、今、取り組んでいる『ゲームやネットの時間』が全国平均よりも、5ポイント位高い状況にあります。ここについては、地頭方小学校も含めながら市を挙げて取り組んでいくということが必要ではないかなということを改めて私も感じました。

『これからどんなことをしていくかを考えますか』というところで、1番多かったのは、『講演会』。これをとにかくやりましょうということで、77.4%。相当賛同を得たのかなと思います。あと、情報モラル教育（児童生徒対象）が71%、あとは、各校各園がこの講演会。60%以上の数字ですので、賛同を得られるのかなと思います。

きょうは、本年度やるべきなのか、やっぱり2年かけて来年度に向けても進めるべきなのかという事を是非お話していただければと思っています。

何とかしなければならぬ重要な問題だとは思いますが、今年やったからすぐに成果が出るとは、限らないと思いますので、委員さんの意見をぜひ伺いたい。それに向けてできることをとにかくじっくりと進めていかなければと思っています。

（2）本日の運営協議会の協議についての説明（学校教育課長）

実践事例

- ・比木・朝比奈・御前崎・白羽地区健全育成会議で講演

4つの公民館から、連絡を受けて、学校教育課の田島指導主事が2回。教育長が1回。社会教育課長が1回。各地区の青少年健全育成の会合で御前崎市の実態についての話をしている。きのう、比木公民館で、青少年健全育成の会合が開催された。今後、御前崎・朝比奈の公民館で、そういった話がある。

- ・御前崎・浜岡中学校で情報モラル教室の実施
- ・浜岡北小・御前崎中学校がPTA総会で報告

4. 協議

それぞれの立場で、どのような取り組みを考えられるか。

- ・保育園・こども園・幼稚園で取り組みたいこと（園長・PTA会長として）
- ・学校で取り組みたいこと（校長・PTA会長として）
- ・地域の代表者として取り組みたいこと、取り組んでみたらよいと思われること

(1) 各グループの報告

・ 保育園グループ

- ① 講演会・・・保護者対象に引き続きおこなう。予算が欲しい。
- ② 園児に対して寸劇等（小中高生がやってくれるとよいが・・・）
- ③ 地域活動参加の呼びかけ。
- ④ 楽しい親子時間の共有。
- ⑤ ポスターはインパクトのあるもの。ポスターを園に掲示することで、行きたくなる。

・ 幼稚園グループ

- ① ゲームを止めることも必要だが、まずは、実態把握。
- ② 遊びの紹介（運動遊び・対話がうまれる遊び等）
- ③ 大人に危機感を伝える。（講演会・座談会・DVD等）

・ こども園グループ

- ① スマホをやめさせる事に力を入れるのではなく、時間の使い方・親子での遊び・かかわることの楽しさ・方法を伝える。
- ② 実態・本音がわかるアンケート。
- ③ 遊び方を知らせる。（遊ぶ機会をつくる・一緒に遊ぶ・いつもは、話をしない人と話をして、いろいろな意見を聞く等）

・ 浜中グループ

- ① 自分事となる講演会（11月17日） あらゆる方法での広報を。
 - ・ インパクトのあるキャッチフレーズ
 - ・ 便り・市の音声告知・絆メール・ホームページ等。
 - ・ 9月12日のSS運営協議会の様子を『まおまお』で放映。

・ 御中グループ

- ① 子ども・・・子どもの発達段階において、便利なこと・危険を回避する方法を伝え、自己管理・自立した子へ。親・・・各Pで。
- ② 御小・・・アンケート結果より・・・時間と早寝の関係。早寝出来ない理由・工夫していること等を記述式で取っている。実態把握をして、懇談会等で話し合っていく。
- ③ SS運営協議会・・・情報交換の場。できることを真似していく。

・ 地域グループ

- ① 広報誌を作って、危険性・安全性、学校・行政の思い等の情報発信。
危機感の乏しい保護者への啓発。
- ② 家庭内ルール（お仕着せでないもの）を1, 2年かけて作っていけるとよい。
傾向を捉え、保護者に返す。
- ③ スクラムカレンダーの中へ、SS運営協議会の目標や取り組みや取り入れる。

(2) 質疑・応答

5, 指導・助言 静岡大学 中村先生

○話し合いを聞いていて気づいた事。

① スマホやゲームを必ずしも禁止するのではない方向を模索しようとしていること。

前回まではコントロールしようっていう部分が結構多かった。でも、具体的に考えてみると、パトロールするっていうことのメリットやそれによって失うこともあるのかっていうことも少し考えているのかなと思った。これは結構重要な話だと思う。つまりスマートフォンやゲームというのはもう完全に捨て去ることができない世界に私たちは生きていて、これは積極的に活用していくような方向で考えながら生きていかざるを得ないのではないかということです。私たちはスマホをある程度コントロールの下に置きたいなと思っていますけれども、かわりに今何をするのか。

皆さんのお話を聞いて感じたのは多分『未来への投資』ということではないか。つまりスマートフォンやゲームにあまり依存しないようにしようじゃないか。その代わりに、何をしようかと。例えば、親子のコミュニケーションを活発にしようであったり、あるいは勉強の時間を確保しようであったり、あるいは自分自身について考えを深める時間であったり・・・それらを含めておそらく、『未来への投資』というような部分に、少しシフトしていくと、『禁止』『禁断』でお互いがいやな気持ちになるよりは、もうちょっと積極的に使いながら、もっと効果的なことに目が向くのではないかというのを感じました。

学力っていろんな意味で使われますけれども、学力の中にコンピューターを活用する力というものが2015年ぐらいから、含まれております。

例えば具体的には国際学習到達度調査というピザという調査がありまして、OECDの70カ国地域ぐらいで、15歳の子供が受ける試験というのがあるのですけれども、これが2015年から完全にコンピューター使用型に移行しているということがあります。例えばクリックができるだとか、キーボードで文字が入力できるとかっていうリテラシーの部分が完全に学力としてカウントされるような、そういう世界の状況もあります。

例えばスマートフォンやゲームや、そういったパソコン使われた時間を完全シャットアウトしましょうみたいなことは、やはり、少しネガティブなのかっていうところです。

我々に何ができるのかを考えるのがきょうの意義だったかなというふうに感じております。

② ゲームやインターネットスマホを使わない時間をどうするのかということ、実は考えているということ。

2022年には成人年齢が18歳になる。20歳じゃなくて18歳が成人になる。

つまり、18歳が大人ですよという時代がやってきます。これはどういう意味かということ、いろいろな解釈があるのでしょうかけれども、つまりは18歳になるまでが保護者の役割です

よということです。ということは、子供という位置づけがそのときに終わるということです。つまり、もうちょっと具体的に言うと、思ったほど子供と親子という関係で過ごせる時間というのは長くないということです。例えば今10歳のお子さんが18歳で大人になるとなった場合、あと8年間しか子供と親子という関係を築くそれだけの関係を濃密に過ごせる時間は残されてない。何時間くらい残されているかと計算してみると、家に帰ってきて、塾とか習い事に行ったりとかして、夜6時7時に帰ってくる。宿題をやる等いろいろな時間があるので、家に帰って来たら、全部、親子として過ごせる時間としては、カウントできない。親子として過ごせる時間は、長くても3時間ぐらいのじゃないでしょうか。そう考えると1日3時間が親子として過ごせる時間で、その時間に一緒に夕食の食卓を囲むということがどれだけミラクルなのかと。

その時間の一つ一つの積み重ねがあと数年間、例えば10歳だったらと8年間位しか残されていなくて、一日に3時間過ごすということが、もつ意味というのは、やはり決して小さくないのではないかとということです。

一ヶ月にどれくらいその3時間が使えるかなってカウントしてみると、86時間位。そうすると大体3日程度ですね。1ヶ月間で3日程度しか子供とじっくり過ごす時間が実はなかった。掛ける(×)12をすればそれが1年間、18歳がもし成人だとして、親と子の関係が違う関係に変質していくとすれば、その時間意外と少ないのだなということ。

これが、例えば3時間の間にお互いスマホ画面しか見てないとか、タブレット画面越しで会話しているとかという過ごし方をしている、本当に幸せなのだろうかということのを少し考える必要があるのかなってということも、私もお話を伺いながら少し感じました。

きょうはいろいろな意見が出て結論は、ひとつに必ずしもまとまらなかったかもしれませんが、講演会をやるというようなことが議論の対象になっていました。

講演会を聞いて、それで何か解決が得られるというものではもちろんありませんけれども、講演会がひとつのきっかけとなってお互い親子で、スマートフォンやゲームと向き合うようなチャンスをつくれることになるようにと願っています。

6. 連絡

- (1) 次回 9月12日(木) 19:00 御前崎市文化会館 2階大研修室
- (2) 第4回 11月17日(日) 10:00 御前崎市民会館(池新田)

第4回のSS運営協議会を兼ねておりますので、皆さんには、案内通知を出させていただき、参加していただくことになると思います。役割分担もあるかもしれません。

託児を設け、保育園の小さなお子さんを持つ親御さんも参加できるようなことも考えておりますので、是非、さまざまな立場の中で、講演会があるよということを宣伝していただきながら、こういった活動をSS運営協議会でやっているということ、紹介をしていただければうれしいなと思います。